



KANDA UNIVERSITY OF
INTERNATIONAL STUDIES

Languages are the foundation to link the world in peace.

Graduate School of
Language Sciences 

神田外語大学大学院 言語科学研究科 公開講座

オンライン開催

日本語における「無生物主語構文」
の可否を巡って：一人称名詞句の
省略の観点から

11 SAT.
JULY
15:00-16:30

講師：栞原 和生
Kuwabara, Kazuki

神田外語大学英米語学科教授・副学長・大学院研究科長

お申込み

下記URLまたはQRコードよりお申し込みください。

申込期間終了後にご登録のメールアドレス宛に詳細をご案内します。

<https://forms.gle/pU6DNv4APFF147obA>

お申込期限 7/7 (火)



入試説明会同時開催

同日13:30～14:30に本学大学院説明会を開催いたします。

詳しくは下記URLまたはQRコードより、ホームページをご覧ください。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/opencampus/extension/>



Contact 教務部大学院入試担当

 infograd-kuis@ml.kandagaigo.ac.jp

 043-273-1320



講演要旨

英語では、The robot vacuum cleaner has reduced the amount of time we spend cleaning. のように、無生物を主語にもつ他動詞構文（「無生物主語構文」）が自由に用いられます。一方、日本語では「無生物主語構文」は一般に許容されにくく（「??ロボット掃除機が掃除の時間を短くした。」）、「ロボット掃除機のおかげで掃除の時間が短くなった。」のように、英語とはかなり異なる表現形式を用いるのが好まれます。こうした特徴はこれまでは文法の問題というよりは、日英語の表現上の志向の違いの問題として論じられてきました。今回の講義では、「無生物主語構文」の可否には一見無関係と思われる一人称名詞句の省略が関与しているという観点から、先行研究では検討されてこなかった事例について考察します。



講師プロフィール

栞原 和生 (Kuwabara, Kazuki)

神田外語大学英米語学科教授・副学長・大学院研究科長

神田外語大学外国語学部・大学院にて「英語統語論」「日本語から英語を見る」（外国語学部）、「日英対照言語研究I/II」（博士前期課程）、「言語学特殊研究」（博士後期課程）などを担当。

1999～2000年マサチューセッツ工科大学言語哲学科客員研究員，2025～2026年東京大学大学院人文社会系研究科にて学外研究。専門：英語学・言語学（特に生成文法に基づく日英語の（比較）統語論研究、生成文法に基づく第二言語習得研究）。博士（英語学）

主な研究業績

著書：『補文構造』（研究社，2001年 [共著]）、『日本語を活用して学ぶ英文法』（神田外語大学出版局，2020年 [共著]）、論文：「補文標識とWh句の共起関係について—理由を表すWh付加詞を中心に」『70年代生成文法再認識：日本語の地平』（開拓社，2010年）、「Peripheral Effects in Japanese Questions and the Fine Structure of CP,」(*Lingua* 126, 2013.)など。翻訳等：『ことばの思想家50人—重要人物からみる言語学史』（朝倉書店，2016年）など。